
ブラッディクロス・オーバー！

内海むま

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ブラッディクロス・オーバー！

【Nコード】

N1914Y

【作者名】

内海むま

【あらすじ】

ここには装着変身ブラッディクロス！（<http://ncode.syosetu.com/n6592u/>）の設定や楽屋裏的な小話などを置いていこうとおもっております。

SHIT 001 (前書き)

本編ではありません。

『装着変身ブラッディクロス!』第一章終了後に掲載していたものをこちらに移動しました。

本編の世界観、読後の余韻を破壊しつくす危険があります。

嫌な方はブラウザバックで御戻りください。

本編収録後。
楽屋。

霧江「はい、じゃあブラッディクロス、第零章反省会はじめますよー」

零次「えっ、なにこれ」

霧江「『スーパーヒーロー意味ねえタイム』……略してS・H・I・T・よ」

零次「Oh!shit!……ってスーパーヒーロータイムのパクリか？」

霧江「日朝の7時半から8時半までの時間がそうなんだけど、その最後、フイズとかカトとかでおまけのコントみたいなことしてたじゃない」

零次「ああ、それっぽいことをやるうというのか」

霧江「実際は厨二ラノベとか中高生あたりが書くネット小説にありがちな、キャラがしゃべる謎のおまけだけどね」

零次「読んでると背中がかゆくなったり顔から火が出そうになったりするアレだな。作者がキャラと会話して、キャラをおちよくって殴られたりするんだ」

霧江「そうそう。私らもそれやって読者様の背中をかゆくしてやる
うかと」

零次「ほほう。で、作者は？」

霧江「恥ずかしかって出てこないわ」

零次「なんだそれ。っていうか意味あんのこれ」

霧江「あるわよ。第一章を書きはじめるまでの繋ぎとして、とりあ
えず新着に乗せてご新規さんを獲得しようとする悪あがきとして」

零次「醜いな」

霧江「まだプロットすら出来てないからね。仕方ないわ」

零次「え？うそだろ」

霧江「マジよ。作者は最後にどうなるかしか決めてないの。途中は
行き当たりばったり。全部で何章とかも決めてない。ただ零章のプ
ロットだけを簡単につくってたわ」

零次「モノ書きとしてどうよ」

霧江「終わってるわよね。プロットあってもその通りにいかないヤ
ツだし」

零次「？」

霧江「頼子っでもともとプロットに居なかったのよ」

零次「え、うそ重要キャラじゃねーの？」

霧江「最初は全然。女の子を増やそうとした結果生まれたのよあの子は。フランケン設定も途中で思いついた完全なる思いつき」

零次「……普通プロットを変更してから書きなおすんじゃないか？」

霧江「しなかつたわね。ぜんぜん」

零次「矛盾だらけになるぞおい」

霧江「作者があほだから仕方ない。もともとしっかりしたプロットも作ってなかったし」

零次「おいおい」

霧江「例えば恭也が裏切るのは確定してたんだけど、その過程でどう行動してたかとかは半分くらい後付け」

零次「ああ、確かに無理やりすぎだよなアレ。19話」

霧江「あいつが裏切る瞬間だけに全力を注いでたからね」

零次「え？全力であれ？」

霧江「イエス」

零次「終わってんな」

霧江「だから人気でないのよ」

零次「なるほど」

霧江「と、キャラにさんざん出来に関する言い訳をしゃべらせたところ、そろそろ干文字です」

零次「予防線張りまくり。そんなに批判が怖いか」

霧江「マゾっけあるけど打たれ弱いからね。精一杯の防衛策」

零次「恥ずかしい奴」

霧江「というわけで第二回に続きます」

零次「まだやんの？」

霧江「一章のプロットができるまでね。ああ、そうそう。そういうわけだから」

零次「？」

霧江「プロットすら出来てないから、いろんなものを後付けできるのよ。というわけで、これから出てくる敵の妖怪や、私がチェンジする新フォームを募集します」

零次「なんと」

霧江「『こんな敵を出せ』『このフォームにチェンジしろ』『そういつつご要望あればメッセージかツイッターの@utumimamaま

で
」

零次「ハイパーバトル デオみたいだ」

霧江「ゴおーほお待ちしてまーす」

零次「絶対に誰も応募してこないに100万！」

恭也「というわけで二回目です」

頼子「Oh!shit!!異議あり!!」

楽屋その二。

恭也「……なんです?」

頼子「どうして私と三号なんですか!?!どうして私と霧江さんじゃないんですか!?!こんな絶対おかしいです!!!」

恭也「知りませんよそんなもん!」

頼子「そしてここで作者を罵倒する!定番の流れですね!」

恭也「そうですね」

頼子「適当に答えてるんじゃないやありませんこの三号ライダー！」

恭也「今回の僕は怪人じゃないですか」

頼子「黙りなさい！あなたなんか最終決戦で私と霧江さんがフュー
ジョンジャーックしてる隣で一人フロート（笑）で浮いていればい
いんですよこのレ　ゲル！」

恭也「ムッ　ーに謝れよ！それだとあんた序盤でいきなり霧江さん
をルラギル役じゃないですか！！あと劇場版だろ！！」

頼子「うるさいですよ三号！ミツシン　エースが名作だとかはどう
でもいいんです！作者はパラダイス　ストのほうが好きですけどね
！！」

恭也「もっとどうでもいいですよ！っていうかこの茶番、本当に意
味あるんですか？」

頼子「だから昨日言ってたじゃあないですか。アクセス数稼ぎのた
めだと！相変わらずお気に入りも評価も増えませんがね！！」

恭也「こんなことしてるからですよ。っていうかお気に入り登録し
てくれてる読者様に迷惑じゃないですかこんなの」

頼子「……確かに、更新入ってもめめか喜びさせるだけですものね」

恭也「そうですね。新章楽しみにしてる人がいるかもしれないのに」

頼子「……ところでパラダイス　ストといえは」

恭也「強引に切り替えやがったこいつ」

頼子「霧江さんとあなたの最終決戦はファ　ズVSオ　ガですよね」

恭也「殴り合いの後新フォームで圧倒して決着付けるあたりは。でも作者的には殴り合いはク　ガのダ　バ戦を意識していたとか」

頼子「ああ、顔じゅうから血を噴き出しながら殴り合うシーンはまさに、ですね」

恭也「んで、作者は最近やっとエタ　ナルを見たそうなんですが」

頼子「あれも面白いですよ。Vシネマしておくなんて勿体無い」

恭也「エター　ルのマントで拳の軌道を隠しながら殴るのがカッコよかったって」

頼子「あなた、確かマント装備してましたね、変身後も」

恭也「ええ、だからそれやっておけばよかったって」

頼子「なるほど。書きなおしますか？丁度私の戦い方を見て学んだ！みたいにこじつけもできますし」

恭也「でも作者的にはかなり気合を入れて書いていたので、アレを消したくないそうなんですよね」

頼子「ふむう、確かに。作者的には勿体無いですよえ」

恭也「まあ、エターナルに限らず、これからどんどんいろんなライターの戦い方をパクる……オマージユヤリスペクトを入れていきますのでお楽しみに」

頼子「そのまんま過ぎてアレなので勿論アレンジ入れまくりますけどね。一応能力バトルものですし」

恭也「え？そうだったんですか!？」

頼子「殴り合いだけなら妖怪一杯出す意味ないじゃないですか」

恭也「そうですね、基本殴り合いですよね霧江さん」

頼子「主人公の能力は出来る限り単純にするのがいいらしいので」

恭也「まあ単純な力こそ一番強力と言えるのかも……」

頼子「さて、そろそろお時間ですね」

恭也「第三回もお楽しみに」

頼子「マジで誰得ですよねこれ」

恭也「アクセス数稼いだから作者得」

頼子「思いつきり恥かいてるのでプラマイゼロどころかマイナスですよね」

恭也「そうですね」

頼子「……」

恭也「……三回目、本当にあるのかなー？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1914y/>

ブラッディクロス・オーバー！

2011年11月16日02時09分発行